

日時;2006.6.3

場所;京都リサーチパーク

出席者;佐藤恵子、丸山英二、玉腰暁子

議事内容

モニタリングについて

現場の実態、対象候補者に与える影響を考慮し、今後、モニタリングは2-3名で行うことが望ましい。
対象候補者に与える影響という観点からは、モニタリング実施者の服装、居場所についても配慮を要する。
説明・同意取得場面では、モニタリング実施者を対象としたロールプレイをしていただくことにより、実態が明らかになることから、できるだけ各サイトのモニタリング時をお願いしたい。

3 サイト(徳島大学、名古屋市立大学、千葉県がんセンター(計画書のみ))の研究計画について検討した。

全体について

新たに参加する施設もあることから、昨年度実施した J-MICC の講習会と同様の会合を再度開催することを提案する。

計画書には基本的な骨格を、手順書にはリクルート現場の流れ、説明同意プロセス(担当者、場所なども)、採血のタイミングなど具体的な事項を書き込むことが必要である。計画書・手順書を読んだ人が研究全体をイメージできなくては、その書類が役割を果たしているとはいえない。

がん登録が不備なところ、がん以外の罹患を把握するところで、対象者(あるいは家族)からの申告を元にする際のフィージビリティについて、事前に確認をする必要があるのではないかと。

健康保険診療情報(レセプト)を利用する場合、そこに書かれた疾患名の信頼性について、何らかの検討をしておく必要があるのではないかと。